

「マレーシア工科大学を山口大学の学生とともに訪れて」

Visiting University Technology Malaysia with Japanese Students

機械工学科准教授 古賀 毅



マレーシア工科大学は山口大学の重点連携大学であり、2012年度から8年連続で毎年山口大学の学生を14名前後留学生として受け入れていただいています。

私は主にマレーシア工科大学の機械精密工学科と技術経営学科の先生方と連携して、創造設計に関する技術研修プログラムを実施させていただいています。私は2018年から約1年間、学生は3週間（短期）または6ヵ月間（長期）訪問しました。特に今年は先方と密に連携し、今までの取り組みをより発展させ、将来に向けて新たに展開させるための活動を集中して実施いたしました。研究教育の詳細な活動報告は別途行っていますので、本稿ではその周辺の、マレーシアのよいところや日本との違い、学生の様子などについて述べてみます。

はじめに訪問先を紹介します。東南アジアは人口が増加し大きな発展をしている最中にあり、山口大学の学生にとって現在・将来の重要な市場・開発生産の拠点となります。中でもマレーシアは周辺諸国と比較して抜群に英語力が高く、治安がよく教育水準が高い国です。プロトンやプロドゥアに代表されるように、自動車を独力で開発する技術力があり、訪れた自動車システム工学研究室は、自動車会社のサポートを受けて次世代モビリティの研究開発に力を注いでいます。マレーシアにとっても日本は重要な連携相手であり、マハ



写真1 到着時の歓迎会の様子

ティール首相の主導で日本式教育を取り入れようとしている超親日国です。

世界中から様々な人種、民族、言語、宗教が集まり、平和に共存しており、単一民族の日本とは全く違う文化や社会が形成されています。山口大学の学生とともにキャンパスに到着すると、大きな垂れ幕を校舎の前に掲げて、歓迎してくれました（写真1）。

私が滞在しているときに、マレーシアでは総選挙があり、ナジブ首相が失脚しマハティール首相が当選しました。長いナジブ首相の政権の間に色々な汚職があり、国民は失望したようで、新しい政治を求めています。マハティール首相は、当選時は93歳で、高齢のため政情が安定するまで数年間のみという条件で首相になりました。マハティール首相はルックイースト政策で知られるように超親日派ですので、今後の連携の加速が期待されます。そのマハティール首相にマレーシア工科大学に来てご講演いただきました（写真2）。高齢にも関わらず1時間、原稿も見ずに立って講演され、感銘いたしました。特に「お金



写真2 マハティール首相の大学での講演

がなくても知恵を絞ればよい研究はできる」という言葉が強く印象に残っています。

創造設計とは、今までにない新しい価値を生み出すモノ・サービスを設計することです。新興国では色々な問題が生じていますので、その現場に飛び込んでニーズを捉え、文化や言語が異なる人々がチームを組んで解決のアイデアを考え、プロトタイプで検証する、ということを行います。写真3は、交通渋滞の問題をチームで議論しあっている様子です。宗教・国籍・性別・専門分野が異なるチームメンバーが熱心に議論し、オリジナルなアイデアを生み出していきます。ペットボトルの



写真3 交通渋滞の問題をチームで考える



写真4 マレーシアの食事の様子

ふたをクルマに見立てて、超自動車社会のクラランプールの問題を話し合い、チームで議論し考え解決策を生み出しています。

マレーシアの食事は、日本と全く異なり、滞在時の楽しみの一つです。お米がジャポニカ種ではなくインディカ種を使うため、そのまま食べるとパサパサしており、基本的に汁物をかけて食べます。写真4は提供いただいたランチの様子です。大きなお皿にココナッツミルクと香草で炊いたライスを入れ、その上に色々な料理をかけて食べます。鍋に色々なカレーやスープ、トレーに麻婆ナス風や肉・野菜を煮込んだおかずが置いてあり、好きなものをかけます。辛いものが多いですが、とても美味しいです。

欧米のパワーランチのような風習がマレー



写真5 自動車システム工学研究室の先生方と



写真6 堀江元在マレーシア大使主催テニス杯の様子（筆者は右から2番目）

シアでもあります。ほぼ毎日、教員同士で集まって一緒に昼ご飯を食べますが、その際に新しい研究の立ち上げや来年の戦略など、結構重要な事柄が話し合わせ、決められていきます。写真5は自動車システム工学研究室の先生方とのパワーランチの様子です。6名の教員に50名以上の学生が在籍し、マレーシアにおいて最も活動的で成果を上げている研究室の1つとなります。

マレーシアの人はお酒をあまり飲まず、運動に対する意識が高いです。マレーシア工科大学ではスポーツデイを定め、サッカーやバレーボールなどといった教職員による運動会を定期的に行い、健康の増進に努めています。中でも堀江元在マレーシア大使主催によるテニス大会が1年に2回開催されており、私も参加させていただいたことはよい思い出です（写真6）。一緒にスポーツをした仲間は仲良くなるスピードが速いもので、仲良くなった後に実は専門分野が近いことが判明して、研究交流に繋がった方も複数名いらっしゃいます。

教育研究活動以外でも、学生共々、いろいろなイベントに招待いただき、参加させていただきました。大学のキャンパスで盛大な結婚式があり、学生ともどもお招きいただきました（写真7）。ロズハン教授には、ハリラ



写真7 キャンパスでの結婚式に参加



写真8 ロズハン教授宅でホームパーティ



写真9 チームビルディング合宿

ヤという断食後の盛大なお祭りを祝うホームパーティに、学生ともどもお招きいただきました（写真8）。また、設計チームの親睦を深めるため、大学の近くの宿泊施設でチームビルディング合宿を企画させていただきました。遭難救助ミッションやジャングルサバイバル

指導を受けることで、チームの結束を高めました（写真9）。

マレーシアの文化は、何より家族との時間を大事にします。仕事も一生懸命行いますが、17時からは家族との時間ですし、親族で集まるための連休が、1年のうち多く設定されており、みなそれを楽しみにしています。それぞれがなすべきことを、第一に仕事、余った時間で家庭ではなく、仕事と家庭が対等であって、両方を大事にする、という価値観のようです。家族を犠牲にするモーレッツ仕事人間、という人は非常に少ないです。

また、マレーシア人はあまり怒りません。面と向かって相談すると、みなやさしく相談に応じてくれ、助けようとしてくれます。そのぶん、相手もそうしてくれるだろうという思いから、若干あつかましい部分もあります。日本人のように、他人に迷惑をかけないように

に気を利かせて問題を未然防止する、というよりは、問題が起こったらみなで集まってワイワイとそれをかたづける、問題は起こるものだ（と思っている）、という意識が強い印象です。マレーシア人は、日本人のことを結構信頼してくれます。「Are you Japanese?」と聞いてきてYesと答えると、親切に対応してくれる気がします。

最後になりましたが、私が不在の間、機械工学科の皆様方には大変お世話になりました。講義負担をして下さいました先生方、不在の間できなかった事務処理や学生のケア等で事務の皆様にも大変お世話になりました。またマレーシア工科大学のWira先生、Saiful先生、Hairi先生、Azizi先生、Hatta先生、Muhsin先生、Tarikh先生、Isrami先生、遠隔の指導に耐えて研究を進めてくれた学生諸君らに、お礼申し上げます。

山口大学工学部創立80周年記念事業募金にご協力をお願いいたします

お願い額 1口 5,000円

応募の方法

同封の払込取扱票（兼寄付申込書）により、郵便局からお振込みください。

問合せ先

山口大学工学部総務企画係

〒755-8611 山口県宇部市常盤台2-16-1

TEL 0836-85-9002